

チロリ通信！VOL.11 (2014.5)

発行元：NPOしずおかセラピードッグサポートクラブ

〒410-0036 沼津市平町24-4-902

電話&FAX 055-962-3190

<http://npo-stds.com/>



平成 25 年度活動報告

1. セラピードッグたちが沼津の老人福祉施設を訪問！ ‘セラピードッグの活躍と命の大切さ’ 講演会も開催！

国際セラピードッグ協会・大木トオル代表とセラピードッグたちを沼津に招聘(9/22)。

午前中は、沼津市内の老人保健施設「ヒルズかどいけ」を訪問、セラピードッグ達のデモンストレーションの後、入居者の方々とのふれあい活動を行いました。

セラピードッグ達とのふれあいで心が癒され、たくさんのステキな笑顔が見られた一方、感動して涙を流されている方も…昔の愛犬との思い出を思い出されたのでしょうか…残念ながら、施設内では犬を飼うことは出来ませんから…。この後、セラピードッグと一緒に楽しく歩行訓練などを行い、終了となりました。「来年も来てね！待ってます！」との皆さんの声をたくさん頂きました。

午後からは、加和太建設株式会社協和会の協賛により、東北被災地支援を行っている様子を中心とした講演会を三島市の総合健康センターで実施。犬達の厳しい現状、捨て犬たちが毎日殺処分されている事…そんな中でも大木代表がレスキューした犬達が、立派なセラピードッグになっていることなどが紹介され、また、福島からの被災犬、「日の丸」も登場し、会場は感動に包まれました。

平成 26 年度も引き続きこの地域を訪問して頂き、多くの皆さんを笑顔にして頂けたらと思います。

(文・竹松 美津子)



～沼津市内の老人保健施設「ヒルズかどいけ」訪問～



「セラピードッグの活躍と命の大切さ」講演会
会場は多くの聴衆でいっぱい～



加和太建設協和会に協賛頂き講演会が実現
加和太建設 河田専務から大木代表に花束贈呈

2. だがしや楽校@三島大社 に参加!

毎年、夏の恒例行事となっている三島の「だがしや楽校」、当クラブは3回目の参加となりました(8/25)。

子供たちに「仕事」をしてもらい、その報酬としてお菓자에換えられる「カバゴン券」を渡し、働くことの意味を教えるというイベント。年々、出店数も来場者数も増え、賑やかな夏休み最後のイベントとして定着しています。

今回は、朝からあいにくの雨で出店を取り止める所もありましたが、当クラブは決行! その甲斐あってか、昼前には雨も上がり、たくさんの子供たちで賑わいました。

今年の当クラブの「仕事」は、「わんわんクイズ」。犬に関するクイズに答えてもらい、答え合わせが終わったところでカバゴン券3枚を渡しました。かわいい子供たちと一緒に、こちらもしめるイベントなので、今後も続けていきたいです。(重本 るりえ)



ちなみに、皆さんは、ご存じですか?? (わんわんクイズのうちの2問⇒答えはページ下に)

① 人間の1歳は、赤ちゃんですね。大きい犬の1歳は、人間にすると何歳かな?

こたえ A 1歳 B 3歳 C 12歳

② 世界中に、犬の種類はどのくらいあるかな?

こたえ A 10種類 B 100種類 C 800種類

3. 2014 ぬまづ福祉まつりに参加!

4回目を迎えたぬまづ福祉まつりは、完成したばかりの沼津駅北口「キラッセ」で初の屋内開催となりました(10/14)。

会場には60位のブースが出て大盛況。新型の福祉機器の展示もあり、実際に試している人もたくさん見られました。

当クラブのメインは、千葉からセラピードッグが来てくれたことです。舞台の上でのデモンストレーションや、来場者との触れ合いに犬たち大活躍の一日でした。また余興として、初めて「無料・簡単占いコーナー」を設けてみました。開店早々は、誰も来なくて心配しましたが、時間と共に行列ができるほどになって大忙し。今度は嬉しい悲鳴でした。

障害のある人も健全な人も同じ人間。「福祉って普通のこと」と感じられるこのイベントが未永く続くことを願い、当クラブも参加し続けたいです。(重本 るりえ)



4. 被災動物救護ボランティア研修会に参加して

テーマ 「災害時の動物救護活動について」、講師 日本動物愛玩協会 理事 平井潤子 先生

私は、この研修会で「愛犬との同行避難」について学んだことを簡単に報告します。

災害時の同行避難は、動物愛護の観点のみではなく、放浪動物にならないようにという視点、動物に対する責任、社会に対する責任があるということ。

同行避難を可能にするためには、日頃からケージに入って犬が安心できる環境作りと慣れさせることが大切。人に吠えたり、噛んだりしない、いろんな人に慣れる、飼い主以外でも世話ができる子に…日頃のしつけや社会性を身に付けることの重要性を強く感じました。

また、餌や水の備蓄も必要、飼い犬の病気や薬を携帯にメモることも大切です。

この他、避難所での共生のポイントとして、住み分け、状況に合わせた飼い主の工夫、学校の教室の活用、導線(交差させない)、犬の嫌いな人への配慮、飼い主同士の協力…。

同行避難とは、飼い主と動物が安全な場所にすみやかに、支障なく避難することで、「同行」イコール「同居」ではないという考え方が大事であり、皆さんにも是非考えておいて頂きたいと感じました。

(加藤 佳子)

わんわんクイズ答え: ①=C、②=C

5. 福島でのボランティア活動を通じて

東日本大震災から3年経ちました。今年も主人と福島の被災動物ボランティアに行ってきました。場所は福島県三春町。福島県動物救護本部です。

犬猫合わせて140頭近く、原発地域での保護や飼い主さんが仮設に入られた…など理由は様々でした。お世話は掃除、餌やり、犬の散歩など…犬たちはとても元気で、被災したなんて思えないほどしっかりと生きていました。

昨年よりも数は減っていて、元の飼い主さんと暮らし始めたり、全国の里親さんに引き取られていたりしているようで、静岡に行った犬もいると聞き、嬉しくなりました。

この子達を見るにつけ、同行避難の大切さ、必要性を強く感じました。離れることは仕方のない場合もあるかもしれません。

でも、私たち人間も、家族である動物達も一緒にいることが絶対幸せだと思います。静岡でも地震が騒がれていますが、万一そうなった場合もまずはしっかり命をつなぎ、共に避難できるような体制であってほしいと強く感じました。(笠井 清美)



6. 捨て犬・命のレスキュー記録！幸せになったワンコたち！

① ポメラニアン mix の『ココ』

『ココ』(♀)は、2年程前に保健所経由で一時預かりをした子でした。

当時の推定年齢は生後6ヶ月…体重1キロほどの小さなワンコで、ほどなく浜松の里親さんに引き取られました。しかし、昨年里親さんの家庭の事情で『出戻り娘』となり、度重なる環境の変化で私への依存度が増してしまい…

結局我が家で引き取ることになりました。現在は10匹の先住猫たちを押し退け、大いばりの日々を送っています♪(菅根 いづみ)

② 甲斐犬タロウ

タロウは甲斐犬雑種の子で、すごく可愛いやんちゃさんでした。一時預かりで我が家に来る前は「鳴いたのを聞いた事がない、他の犬とも大丈夫」と聞いていたので、安心していたのですが…小さく可愛いので抱っこしたり、一晩家の中で寝かしたり、美味しいご飯をあげたり、甘やかしたのがなめられたのか、その後会わせうちのワンコ達がお尻の匂いを嗅ぐと唸って怒り、慌てて引き離すはめに。

なにかあっては大変だからと外の小屋で過ごさせる事にしましたが、朝5時から甘えて泣くうるさい子に変身してしまいました。保健所の様子は全く当てになりません。

それでも、誰にでもなつく良い子で、すぐに新しい飼い主が決まると思いました。すると新聞を見て、静岡の方でお子さんが三人いる方がわざわざ見に来てくれました。外飼い希望で、鳴いてうるさいかもと伝えると、悩まれた様ですが、この子しかいないと決定してくれました！ いっぱいかまって甘やかしてもらえると良いな～たくさんの愛情があるおうちで幸せにね！(辻 桐子)



7. 読み聞かせ～「いのちをつなぐ」(大木トオル著)

子供が通う小学校で始めた「読み聞かせボランティア」。その日は動物愛護週間に近い日で、私の担当が6年生という事もあり、セラピードッグを目指す被災犬達を綴った「いのちをつなぐ」(国際セラピードッグ協会代表・大木トオル著)を読む事にしました。

まだ私達の記憶に新しい東日本大震災。人間だけでなく、ペットを含むたくさん動物達も被災しているという現状を、6年生なら受け止められる…そう思ったからです。

ページを開くと犬達の保護された当時と3ヶ月後の写真が並んで載っています。ボランティアの手によって保護された犬達が、温かい人達によって救われ、犬らしさを取り戻し、大木氏のもとでセラピー犬への道を歩き始める様子は、子供達にとっても初めて知る事ばかりだったようで、皆、真っ直ぐな眼で、最後まで聞いてくれました。自分の家で共に暮らす犬や猫達と同じように、命はみんな平等なのだとかわかってもらえたようでした。

これからも、機会があれば伝えていきたいと思っています。(清水まゆみ)



8. 国際セラピードッグ協会が被災犬終身保護施設を建設！

1月にしては柔らかな日差しの中、当クラブのメンバー9名で千葉県松戸市にある国際セラピードッグ協会のトレーニングセンターを訪問しました。(H26/1)

到着するなりスタッフの皆さんから元気な挨拶を頂き、館内に入ると、キャリーの中の保護されて日の浅い犬達が迎えてくれました。

次に案内された所は訓練中の犬達の部屋。急な訪問者にもかかわらず、皆一切吠えたりする事もなく静かな眼で私達を歓迎してくれました。

その後、庭に誘導してもらおうと、犬達が何匹かで楽しそうに走り回っています。中には重い病気を克服しやっと歩けるようになった子が、仲間の皆と一緒に走ろうと、オムツ姿で足を引きずりながら懸命に歩く姿が健気で、その姿は涙を誘いました。

そして、庭の先には福島からの被災犬を受け入れる為の新たな保護施設が建築中で、中には既に数頭の犬達がいて私達を迎えてくれました。その犬達の傍で大木氏から今の福島の現状や、それに対する思いを聞いたのですが、その間、ほんの少し前まで尻尾を振ってじゃれていた犬達が、人の言葉を理解しているかのように静かに聞きいってるようでした。

僅か1時間程の滞在でしたが、犬達と家族同然に接する大木氏を始めスタッフの皆さんの細やかな心遣いや愛情が伝わり、とてもいい時間を過ごす事が出来ました。皆で必ず再訪を果たす事に心を決めて、次の目的地、お台場の「チロリカフェ」を目指したのでした。(清水 まゆみ)



お台場ヴィーナスフォート「チロリカフェ」！
グッズに加えフード類も充実！

9. 犬の殺処分を減らす！～市へ迷子札ホルダーを寄贈

当クラブでは、H25年4月に犬の迷子防止ホルダー200頭分を沼津市に寄贈しました。浜松、静岡の政令市を除き、県下で飼い主が見つからないために年間700頭がガス室で苦しみながら殺処分。

殺処分を減らすには、警察や保健所の抑留3～7日間で飼い主を探すことが第一ですが、行政の鑑札の装着率は極めて低く、迷子になった際、飼い主の特定が難しいのが現状。このことから、迷子防止用に簡単に首輪装着できるホルダーを市に寄贈し、市役所窓口にて配布がスタートしました。

なお、これにより平成26年度からは沼津市の予算で2000頭分の迷子ホルダー配布が実現しました！



★セラピードッグ育成募金へのご協力ありがとうございます！(募金箱設置の会社、お店など)

(株)ジャスコム / 阿蘭陀館 / リステック / ペド・パンヌ / 沼津観光協会 / わんのはな

NPO SIDAM / 影山鉄工所 / トニスホルル / プレ倶楽部 / ドッグカフェ ホワホワ / スタック ジョングル 他